

# JSL高校生の授業理解を助ける補助教材開発の試み

坂井香澄(筑波大学院生)

## 対象

A高校2年生:2名(来日3年目, 日本語運用能力は初級後半~中級前半, 母国での学習言語:英語)

抱える課題: 世界史の学習

- ・わからない漢字を調べるだけで力尽きる
- ・授業をまじめに聞いてもわからない

## 目標

内容理解を中心とした予習教材提供

教材提供により...

- ・ワンクリックで言葉が調べられる
- ・リライト文とイラストで流れを理解

## 実践概要

- ①聞き取り: ニーズ調査
- ②作成: 大学生12名
- ③提供: Wordファイル
- ④改善: 生徒からのフィードバック

## 作成教材

### 作成のポイント

- ①難しい言葉を避け、簡単な言葉を使う。
- ②1文をあまり長くしない。
- ③教科の学習に必要な語彙はそのまま使う。
- ④できるだけ単純な動詞文にする。

## リライト本文

- ・生徒の理解語彙で内容を解説。
- ・イラスト等で視覚的に整理。
- ・歴史の流れが理解できる。

例)

## 見出し

- ・教科書のページ数とタイトルでらくらく検索!

## 語注

- ・辞書を引かなくても意味が分かる。

## 成果

- JSL高校生
- ・「内容理解に時間が使えるようになった」
  - ・「授業内容がわかるようになって嬉しい」
  - ・「テストの点が上がった」
- ⇒授業理解促進, 自己効力感の向上

- ・「自分たちを気にかけてくれる人がこんなにいることがありがたい」
- ⇒社会とのつながり感

社会で必要な力の育成に貢献

- 教員
- ・JSL生徒だけでなく科目が苦手な生徒にも有効
- ⇒授業外支援の負担軽減

- 大学生
- ・JSL生徒、JSL生徒教育への理解が深まった
- ⇒教師養成課程における教材開発の有効性

## 今後の課題

- ・リライト文の難易度をどこまで調整するか。
  - ・日本語の学習と教科の学習。
  - ・教材内での難易度の差をどう調整するか。
- ・内容により、まとめ方に工夫が必要。(人物の紹介は漫画形式、政党のまとめは一覧表等。)